

沖縄の外来種問題について



本日の話題

- ① 沖縄の種の多様性について
- ② 沖縄の外来種問題の特徴
- ③ 主要外来種の現状 (生態的・経済的・人的インパクトの高い種)
- ④ 沖縄の外来種問題の課題

沖縄県内の主要な外来種

1. 生態系へのインパクトの大きい外来種

- ① フイリマンゲース (沖縄島)
- ② ノネコ・ノイヌ (各島)
- ③ イノブタ(沖縄島・西表島)
- ④ グリーンアノール (沖縄島)
- ⑤ タイワンスジオ (沖縄島)
- ⑥ カメ類(各島)
- ⑦ 外来の淡水魚類 (各島)
- ⑧ サイカブト (大東諸島)
- ⑨ アメリカハナグルマ (各島)
- ⑩ ツルヒヨドリ (各島)



2. 経済的及び人的インパクトが大きい外来種

- ① タイワンハブ・サキシマハブ (沖縄島)
- ② ミバエ類・アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ (各島)
- ③ マツノザイセンシュウとマツノマダラカミキリ (沖縄島)
- ④ ゴマダラカミキリ類 (沖縄島)
- ⑤ ゴケグモ類 (各島)



ノネコに捕殺された直後のケナガネズミ（国頭村の林道）

④ カメ類

被害状況： 県内各地で在来種の捕食や交雑による遺伝的攪乱が生じている。
対策： 組織的な駆除は行われていない。



ヤエヤマイシガメ (県内外来種)
Mauremys mutica kami



ミシシippアカミミガメ
Trachemys scripta elegans



ヤエヤマセマルハコガメ(県内外来種)
Cuora flavomarginata evelynae



ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis*

ツルヒヨドリ（特定外来種）

学名：*Mikania micrantha*（キク科）

原産地：北アメリカと南アメリカの熱帯地域

帰化状況：・国外ではアジアの熱帯地域、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、インド洋諸島、太平洋諸島に帰化。

・日本で1984年に沖縄県うるま市で発見され、現在では中部から北部に掛けて繁茂し、急速に分布を拡大している。最近、西表島にも侵入。

被害状況：・生育が旺盛で林冠を覆うように繁茂するため、在来植物が駆逐される。



北中城村の林縁部を覆うツルヒヨドリ



ツルヒヨドリの花

2. 経済的及び人的インパクトが大きい外来種

① タイワンハブ（特定外来生物）

駆除対策：2013年度から「危険外来種咬傷対策モデル事業」により罠による捕獲を実施
 分 布：名護市・今帰仁村・恩納村



タイワンハブ

Protobothrops mucrosquamatus

沖縄島南部では、サキシマハブ

Protobothrops elegans (県内外来種) が定着

2005. 7. 9 (土)

タイワンハブ初咬症

猛毒 名護市の男性入院

名護市我部祖河で外来種「タイワンハブ」による咬傷が、県内初の咬症が、県衛生環境研究所ハブ研究室の調査で八日までに確認された。かまれた男性は名護市内の病院で治療を受け、近く退院するという。六月に同地区付近を分布域として、チラシで注意を呼び掛けたばかりの同研究室は「かなりのタイワンハブがいる」とみており、目撃情報の提供を呼び掛けている。

同研究室によると、男性は六月二十九日午後六時ごろ、自宅庭から部屋に上がるうとしたところ、床下の排気口に隠れていたタイワンハブに咬まれた。咬傷は約二・二倍強攻撃的で動きも素早い。治療はハブ抗毒素でも有効という。

目撃情報や対策については、同研究室などへ問い合わせは同研究室、電話098(946)6710、または名護市環境衛生課、電話0980(52)0003。

漢方薬 きな薬局
 沖縄市プラザハウス近く
 933-2831

③ ゴケグモ類 (特定外来種)

沖縄県内で生息が確認されているゴケグモ類



ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*



アカオビゴケグモ *Latrodectus elegans*

- ・ 1995年12月に県内一斉調査が行われ、那覇空港と浦添市の港でハイイロゴケグモが、石垣島、西表島、波照間島でアカオビゴケグモを発見。
- ・ ハイイロゴケグモは、県内全域に生息。
- ・ アカオビゴケグモは生息地が減少。
- ・ 両種ともに港湾、公園、耕作地などの人工的な環境のみに生息。

③ ゴマダラカミキリ類 *Anoplophora* 属

- ・ 沖縄島には、オオシマゴマダラカミキリ(在来?)、ゴマダラカミキリ(1970年代に侵入)、台湾ゴマダラカミキリ(1990年代に侵入)の3種が分布。
- ・ 沖縄島の南部地域に台湾から台湾ゴマダラカミキリが侵入し、北部地域へ分布を拡大。センダンやミカン類が大きな被害を受けている。



台湾ゴマダラカミキリ
Anoplophora macularia



加害を受け枯死寸前のミカンの木

沖縄の外来種対策に向けて

すべての外来種を駆除することは不可能！

外来種に関する対応方針の決定

- ① インパクトの程度を把握(推察)したトリアージ
- ② 地域の特性に合わせた対応方法の検討
- ③ 根絶or個体群コントロールに関する科学的手法の検討
- ④ 外来種に関する知識の普及啓蒙(初任者研修などの活用)
- ⑤ 早期発見のための市民も巻き込んだ監視体制の構築
- ⑥ 一般外来種における条例等による法的規制(マルバネ等)
- ⑦ 対応を実施できない外来種との付き合い方の検討